

ちばサイエンスの会ジュニアクラブの活動

Activity of The Junior Club of The Chiba Science Association

深山 輝夫*

MIYAMA Teruo*

ジュニアクラブ代表*

松崎 一康**

MATSUZAKI kazuyasu**

ジュニアクラブコーディネーター**

中川 好美***

NAKAGAWA Yoshimi***

千葉市立新宿小学校***

President of The Junior Club of The Chiba Science Association *

Coordinator of The Junior Club of The Chiba Science Association **

Shinjyuku Elementary School ***

[要約]本報告では、「ちばサイエンスの会」(略称ちばサイ)の目的達成のために組織したジュニアクラブの活動並びに市民団体のあり方と発展策についての考察を紹介する。

[キーワード]感動体験、ものづくり、教師と研究者のスクラム、異年代の触れ合い

1. はじめに

ちばサイが任意団体結成(2001.7.7)当時より掲げた目的「自然科学教育の普及、特に子供たちの未来への夢の育成に寄与すること」の具現化のために、小学4年～中学3年対象のクラブを組織、2001.9.1発足した。

新組織の編成・活動で直面した諸問題を明らかにし、それらをどうクリアし、さらにどう発展しようとしているかを報告したい。

2. 諸問題への取り組み

(1) 指導者の組織・子供を魅惑する計画

第一段階として、子供の「ものづくり」に教職時代より永年取り組んできたOBを核に、活動的な現職を交えて、指導者を組織。

子供を魅惑するテーマを選び、製作会・科学講演会・見学会等の活動を企画。

講演会の柱として着眼したのは、すばらしい内容にもかかわらず、子供たちの出席の少ない市立郷土博物館プラネタリウム主催の天文講演会への積極的参加であった。

幸い、的川泰宣ちばサイ会長(当時)の「**宇宙を目指せ！君は宇宙で活躍できるか！**」という子供たちを惹きつけるテーマの天文講演会参加をもって、クラブを発足した。

2002・03年度には、多賀治恵学芸員(ちばサイ会員)企画の**プラネタリウム解説体験プログラム**を実施。子供たちは異学年グループ

に分かれ、シナリオ制作からスタート。3日目には互いに協力して機器を操作。語る星のロマンは、親や参観者に多大の感銘を与えた。



プラネタリウムを操作する子ども達

(2) 活動の場の確保・活動資金の確保

これらは新組織の直面する難問である。

ちばサイ会員校長の理科室、運良く空いている公民館、ものづくりの工具がそろっている青少年センターなどを活用している。

資金は、「科学が好きな子どもたちを育てる教育支援」を行う(財)ソニー教育財団に論文応募、2年続けて助成金を、04年度は、独立行政法人オリンピック記念青少年総合センターよりちばサイへの助成金の一部を利用できる状況にある。

(3) 関係諸機関の理解・クラブ員の募集

最初は千葉市内全小・中学校理科主任宛に募集のちらしを配布したが、あまり効果なし。ち

ばサイ会員からの口コミで、ようやく 01.9.26 に、45 名(小 31、中 14)、11 月末に 61 名(小 47、中 14、小 3 以下の準会員 9) に達した。

3. 活動の実態

(1) 活動を貫くキーワード

「ものづくり」は「子供の心の栄養」
「宇宙の学び」は「人間の命の源流」
を探ることと把握、クラブのキーワードを「感動体験 - いのちと心を大切に」とおさえ、活動目標・内容を充実させた。

(2) 「ものづくり」の楽しさの体験

クラブの活動から発展

活動後、保護者から「光る星座盤、プラネタリウム解説体験、星を見る会等に参加するうち、3 人の子達(5 年、4 年、2 年)は星に夢中。さらに発展した物を作りたいと言うので、光ファイバーを分けて頂きたい。」との要望がクラブに。児童の心の扉を開いた活動となったことに企画の成功を実感した。



完成した光る星座盤

「子供を知る教師と科学研究者がスクラムを組んだものづくり」：「静電気ベル」

豊富な知識を持つ企業研究者 OB と教職 OB 及び保護者が、それぞれの長所を生かし、協力して実践した例。ちばサイの特色といえよう。

またこの時、緑町中学生が児童をアシストしてくれた。



完成した静電気ベル

(3) 第一線科学者の人間的魅力に触れる

千葉大学鷹野敏明助教授(当時ちばサイ理事)が公民館で「電波で探る宇宙の謎」を小中学生(ジュニア)対象に分かりやすく講演された。

最先端の科学に触れ、子供たちが科学者の

人間としての魅力に触れた貴重なひと時であった。質問も活発で、最後は講師を囲んでの記念撮影。



宇宙の謎を解く鷹野さんと子供たち

4. 更なる発展のために

(1) 現状の確認

04.2.08 現在の会員数は、124 名(小 86: 男 47、女 39。中 38: 男 9、女 29)。特に女子の多いことは喜ばしい。

ただし、ものづくり、見学会、科学講演会等の参加は、平均 20 名~25 名(主として小学生)に過ぎない。

(2) 今後の方策

委託事業引き受けの PR をする

ちばサイが NPO 法人として発展するためには、自主事業だけでは限界がある。

そこで、学校や公民館などの要望に応えて出前の実験、製作会及び講演などを行うべく、千葉市教育委員会に「ものづくりのメニュー」を持参、積極的に働きかけた結果、本年度の夏休みから実現しそうである。

小・中学生の触れ合いを増やす

緑町中学生の活動時のアシストを通じ、お互い通常の学校では得られない貴重な体験ができた。このような機会を生かし、児童・生徒間の交流の機会を増やし会員同士のつながりを強め、積極的な参加と技術の向上を期待したい。

子供たちが受信者から、自ら発信者へ

クラブ参加者が、その感動体験から、「物にも、いのちがある」と感じて、「大切にする心」が養われることを信じたい。

また、作品を家族や友人に紹介すれば、コミュニケーション力もつくであろう。

さらには、千葉市教育委員会主催の「火星ローバーコンテスト」や各種科学関係の行事に積極参加することを期待したい。